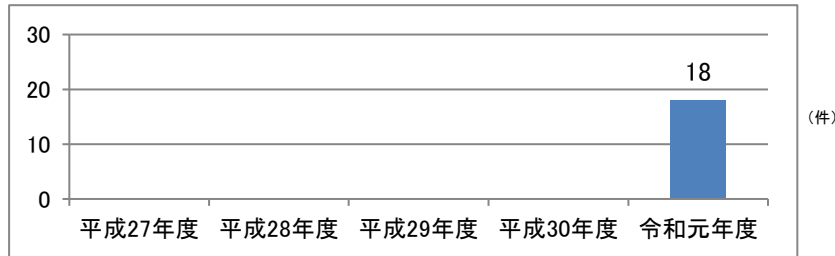


## 8 臓器移植件数(造血幹細胞移植)

### ○項目の解説

国立大学付属病院長会議常設委員会より公表され次第、掲載いたします。

### ○当院の実績



### ○当院の自己点検評価

【血液・腫瘍内科】 血液・腫瘍内科で診療している疾患の大きな部分を占める造血器悪性疾患(白血病、悪性リンパ腫など)においては、造血幹細胞移植はなくてはならない治療の一つとして重要な位置を現在でも占めています。当科では、病棟に2床の無菌室を有し、自家末梢血幹細胞移植をはじめ、骨髄・末梢血・臍帯血を用いた同種造血幹細胞移植を行っています。また、血縁ドナー・非血縁(骨髄バンク)ドナーの骨髄採取も行い、当院だけではなく他の医療施設とも連携を行っています。道北・道東地区には、血液診療を専門とした診療科を有する施設は極めて少なく、特に造血幹細胞移植が施行できる施設は限られており、この地区全体の移植治療の一翼を担い続けています。平成30年度までは、1年間の骨髄移植(自家移植を含む)の件数を指標とし公表していましたが、令和元年度からは、1年間の造血幹細胞移植(骨髄移植、末梢血幹細胞移植、臍帯血移植)(自家移植を含む)の件数を指標とすることに変更となり、経年変化を厳密に比較することにはなりません、施行件数としては、年間5～10例前後の造血幹細胞移植を行っており、年度毎の件数に大きな変化はなく、カバーする医療圏の人口からみて妥当な件数を維持していると考えています。また、移植治療においては、地域での病病連携や病診連携を推進しています。病気が発見される方の年齢は近年ますます高齢化しており、高齢者にも安全かつ効果的な移植医療を提供できるよう医師・歯科医師・歯科衛生士・看護師・薬剤師・臨床検査技師・理学療法士・管理栄養士などの多職種による移植チームの診療レベル向上を図ることに加えて、移植前処置や支援療法の改善に努めています。

【小児科】 小児移植施設としては、北海道内では札幌を除く唯一の移植センターであり、特に道北・道東地区において重要な役割を担っています。白血病や神経芽腫などの小児がん、再生不良性貧血などの骨髄不全症、先天性免疫不全症や先天性代謝異常症などに対して、造血幹細胞移植をおこなっておりますが、移植でしか治療が期待できない疾患は多く、治療手段としていまだに重要な位置を占めています。令和元年度の移植実施件数は、同種骨髄移植が2件、同種末梢血幹細胞移植が1件、自家末梢血幹細胞移植が3件でした。ここ5年では、1年に2～7件で、平均4～5件の移植を行っています。移植の際には集中管理が必要で、スタッフが無菌室内に常駐して対応しており、安全な移植医療を行うためにも人員は欠かせません。小児科医師、看護師、病棟薬剤師をはじめ、緩和ケアチーム、口腔外科などの関連医師や、理学療法士、病棟保育士にも関わってもらい、小児の発達を促しながら、良質な移植医療を常に提供できるように努めており、日本造血細胞移植学会より小児科としても移植施設認定を受けております。近年、小児がんは80%が治癒するようになりましたが、その治療成績を維持・向上させる手段として移植が果たす役割は大きいと、より高い水準の移植医療をおこなえるように努めて参りたいと思います。

### ○定義

当該年度1年間の骨髄移植の件数です。集計対象は、「骨髄移植」、「末梢血幹細胞移植」、「臍帯血移植」になります。自家移植を含みます。

### ○算式

実数